

# 令和7年度 第1回富山県公私立高等学校連絡会議の開催結果

日 時：令和7年9月2日（火）10:00～11:30

場 所：富山県民会館 509号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者4名、県教育委員会6名、学術振興課長 計12名

（出席者からの主な発言・意見等）

## 1 令和8年度の募集定員について

- ・ 広域通信制への入学や県外流出が年々増えている流れが急に止まるとは思えず、その傾向はさらに強まっていくと懸念しており、県立の定員と来年度入学者数との乖離がさらに大きくなっていくと考えられる。
- ・ 1学級40人とする適正化が図られたことは、県の予算が減るため評価できる。
- ・ それぞれの県立高校の生徒数に対する教員数の配分を表すS T比の資料があれば、経営の効率が見えてくる。
- ・ 生徒が減って、県立高校の定員が埋まらない部分が広がっている中で二次募集も続けると、多くの受検生が二次募集を志願し、合格後に私立高校から生徒が抜けていき、私立高校に影響を受けることが目に見える。公私比率はなくなったが、その中で適正な設定をして、お互い尊重しながらどうすれば富山県の教育をよりよいものにしていけるかを考えることが必要。
- ・ 昨年度の県立高校入試一次の合格発表があった時点で500人以上の定員割れがあり、二次募集をしても300人以上が埋まらなかったところを踏まえれば、県立高校の募集定員が98人減というのは、私学にとっては厳しい数字だと実感している。
- ・ 過去4年間の中学生の志願者動向を調査され、それをもとに志願者数を推計したことはしっかり考えられている。
- ・ 昨年度の県立高校入試で、400人を超える欠員が出ているという現状は、昨年度だけではなく、それ以前も欠員があって増え続けているためであり、募集定員のあり方を含めて、入試制度全般を考えていくことが必要。
- ・ 生徒減の中で、それに応じた対応をしなければならず、過去4年間の志願状況をもとに、定員設定をしていくことが適切なのではないかとということで、今回の方針となった。

## 2 公私の魅力向上などの取組について

- 「新時代とやまハイスクール構想」はよくできていると感じるが、これを実現させるには、今後相当な努力も必要だと思う。
- 構想について現場の先生方が意識の転換を進めていかないと広まらない。それに向けて研修等を開くなど現場の意識をどのように転換していくのが重要。
- 山間地にいる子どもと富山、高岡市内にいる子どもとでは通学圏が違うが、教育を受けるという観点では公平公正でなければいけないのは基本。描かれている構想の中で、全ての子どもをしっかりと受けとめていけるよう、県立高校としてのあり方、役割を検討してほしい。
- このような立派な構想があっても、中学生にどう伝えるかとなると、中学校の先生方に対して理解を求めることが大事。また最終的に選ぶのが中学生たちであるところをイメージして、説明の工夫をすることが必要。